

第24回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」の報告書

2月21日(水)に16名(他教室参加などの4名を含む)で開催いたしました。今回の題花はククタチ(莖立ち)アブラナ(油菜)科の植物でした。アブラナというとなすぐに菜の花を連想してしまいましたが、「ナノハナ」という植物は植物学的にはなく、アブラナ科の花の総称であると同って驚きました。アブラナは若い葉を食用するときは「アオナ」、種子ができたときは「ナタネ」と呼ばれ、「ククタチ」とはアブラナ科の植物が伸びてしまった莖の事だったと知りました。健康に非常に良いアブラナ属の植物はアブラナに小松菜、がん予防効果の高いブロッコリ、カリフラワー、からし菜、セイヨウアブラナ(菜種油を取る)など数多く栽培されています。



葉(莖を抱く)

実

アブラナの花



万葉集には「菜」が付く歌が12首ありますがその中から2首教えていただきました。ひとつはくくたちを料理して待っていますわ、という上野(かみつゆ)の東歌。もう1首は即興歌や物名歌(歌や句の意味とは関係なく物の名前を読み込んだもの)を得意とした長忌寸意吉麻呂(ながのいみきおきまろ)が詠った青菜(あおな)の歌でした。青菜については古事記には仁徳天皇が皇后の目を盗んで好意を寄せた女性の元をたすね、苧(あおな)と一緒に楽しく摘む歌があり、日本書紀には持統天皇が五穀を助けるものとして蕪菁(あおな)などの草木を植えるように奨励したことが記されているそうです。

さらに長忌寸(いみき)意吉麻呂が出てきたので、684年に天武天皇が作った新しい身分制度の「八色の姓(やくさのかばね)」についてもご説明いただきました。上位から皇族である真人(まひと)、臣下の中で最上位の朝臣(あそん)、宿禰(すくね)、忌寸(いみき)、道師(みちのし)、臣(おみ)、連(むらじ)、稻置(いなぎ)の8種類で、天武天皇以前は上位であった臣や連は格下げされ、天武天皇に有利な体制を作ったため、人事の天才と言われるそうです。また、春の七草の中でアブラナ科とアブラナ属の植物はいくつあるかというクイズがあり、いろいろな答えが出て楽しかったです。

いつものように皆で唱和して調べを楽しみました。1首付け加えて長忌寸意吉麻呂の語順の新鮮な歌も唱和しました。苦しくも降りくる雨か、で始まるこの歌に演歌を感じるという方がおられました。



今回の先生の着物は4弁のアブラナ科の花を散らした意匠で、帯はワサビ(アブラナ科)でした。帯留もワサビです。帯締めはアブラナの種のオレンジとセイヨウアブラナの種の赤紫の2色使いです。帯揚げはアブラナ属の花の鮮やかな黄色でした。

次回第25回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和6年4月17日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田505号室

参加費 1,500円 参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします mondlicht.y.20@gmail.com

令和6年2月29日

文責: 三浦美智子・高木紀世子

5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願いいたします (資料は後日お渡しいたします)

◎4月17日に都合の悪い方は講師に直接ご連絡ください paksara3t@gmail.com